

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 4 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 3 月 15 日 (2007.3.15)

【公開番号】特開 2005-336823 (P2005-336823A)
 【公開日】平成 17 年 12 月 8 日 (2005.12.8)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-048
 【出願番号】特願 2004-156381 (P2004-156381)
 【国際特許分類】

E 0 4 B 1/76 (2006.01)

E 0 4 B 1/70 (2006.01)

E 0 4 F 13/08 (2006.01)

E 0 4 F 13/14 (2006.01)

【F I】

E 0 4 B 1/76 L

E 0 4 B 1/70 D

E 0 4 F 13/08 1 0 1 W

E 0 4 F 13/14 1 0 2 A

【手続補正書】
 【提出日】平成 19 年 1 月 31 日 (2007.1.31)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 0】

さらに、外断熱壁は、建築物外壁の下地面 2 に設けられる板状の断熱材 4 と、この断熱材 4 の外側表面に設けられる細長板状の通気胴縁 7 a、7 b と、この通気胴縁 7 a、7 b の外側表面に固定される複合板 1 0 とを備える。複合板 1 0 は予め木質合板 1 1 に無機質を主成分とする軽量セメントモルタル層 1 7 が設けられる。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 3 5】

通気胴縁 7 a、7 b の材料としては木質系である。その断面寸法は、たとえば幅 45 ~ 90 mm × 厚さ 15 mm 以上とする。なお、通気胴縁 7 a、7 b で断熱材 4 を固定する際、防水紙 6 を介在させる。防水紙 6 は、通気胴縁 7 a、7 b と断熱材 4 の間だけでなく、断熱材 4 の全面に設ける。防水紙 6 としては、アスファルトフェルトやポリエチレン、ポリエステル、ポリプロピレンなどの透湿防水シートを使用する。

【手続補正 3】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 4 0
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0 0 4 0】

次に、実施例 1 の外断熱壁の作用について説明する。図 2 において、断熱材 4 と複合板 1 0 との間に、通気胴縁 7 a、7 b の厚みに相当する通気路 8 a、8 b (隙間 9) が形成

され、この通気路 8 a、8 b により外壁内の結露を防ぎ、断熱、気密性能を向上させることができる。複合板 1 0 は、予め木質合板 1 1 に軽量セメントモルタル層 1 7を設けて形成されたものであるので、軽量セメントモルタル層 1 7の割れ、剥離、脱落などがなく複合板 1 0 の品質を安定させることができる。さらに、軽量セメントモルタル層 1 7を現場で塗布する必要がなく、施工期間を短くすることができ施工性も向上する。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 2】

- 1 建築物外壁
- 2 下地面
- 4 断熱材
- 7 a、7 b 通気胴縁
- 8 a、8 b 通気路
- 9 隙間
- 1 0 複合板
- 1 1 木質合板
- 1 7 軽量セメントモルタル層（モルタル層）